

〇ようやく“通常登校”に戻りました！

みなさん、今まではグループ別の登校でしたが、今日からようやく全員そろっての“通常登校”に戻りました。久しぶりに会う友達の顔はどうでしたか？ やっと今までの「学校生活」が戻りつつありますが、すべて今まで通りの生活に戻るわけではありません。新型コロナウイルスへの感染を防ぐために、今までの生活とは違う“新しい生活スタイル”が求められています。日頃から私たち一人ひとりが感染予防に努めながら、少しずつ「日常」を取り戻していきましょう。



さて、学校生活も少しずつ日常を取り戻している中、来週には3年生として初めての「中間テスト」があります。中間テストや期末テストは学習の評価に繋がっており、特に通知表の評価は公立高校の入試において、「調査書」の成績、いわゆる「内申点」として重要な意味合いをもっています。そういった意味でも、これからのテストは自分の進路の実現に向けて、非常に大切なテストになります。しっかりと計画を立てて、学習に取り組んでください。

《進路情報：公立高等学校入学者選抜の「調査書成績」について》

さて、公立高校の入学者選抜（入試）における「調査書」について説明します。

調査書には、「各教科の学習成績（いわゆる“内申点”）」のほか、「学習活動の記録」や「特別活動の記録」・「行動の記録」・「スポーツ・文化活動等の記録」などを記載します。そして公立高校への出願の際に、受験する高校に提出します。中学校で作成して高校へ提出しますので、みなさんの目に直接触れることはありません。入試では、当日の検査成績と調査書の成績を総合的に判断して合否を決定します。つまり、調査書の成績も合否に大きく関わってくるということです。そのため、日頃から調査書のことも意識して学習に取り組んでほしいと思います。

【各教科の学習成績について】

各教科において、2年生の学習成績と3年生の1・2学期の学習成績を総合し、15点満点で算出した学習成績を算出します。このとき、2年生の成績と3年生の成績の割合は1：2となるように算出します。つまり、3年生の成績が大きな割合を占めるということです。このようにして9教科（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・技術家庭・英語）それぞれ15点満点、合計135点満点で算出します。

【加重配点】

各教科の学習成績は、原則135点満点となりますが、高校によっては、高校が重視する教科において、「加重配点」が行われる場合もあります。昨年度の入試における具体例を示します。

《例Ⅰ：【特色選抜】奈良県立法隆寺国際高等学校 総合英語科》

調査書において重視する教科	調査書成績の満点
英語（15）	150

この場合、英語に15点分の加重配点があり、英語については30点満点で学習成績を算出するということになります。（※調査書成績の満点は150点となります。）

《例Ⅱ：【一般選抜】奈良県立榛生昇陽高等学校 普通科》

調査書において重視する教科	調査書成績の満点
全教科（15）	270

この場合、すべての教科に15点分の加重配点があり、各教科30点満点、合計270点満点で学習成績を算出します。

【調査書の特別な取り扱いについて】

「調査書の特別な取り扱い」とは、募集人員の9割以上の合格者を決定した後に、残りの人員について、合否判定の際に、中学校等での活動実績等も積極的に評価するというものです。特色選抜・一般選抜において、一部の高校で実施されており、「各教科の学習成績」以外の記載事項の中で、各高校が重視する事項について点数化し、調査書成績に加算して合否を判定します。昨年度の入試における具体例を示します。

《例Ⅲ：【一般選抜】奈良県立国際高等学校 国際科》

調査書において重視する事項	合格人数枠	満点
実用英語技能検定 準2級以上相当	24名	10点（調査書成績の満点145点）

この場合、募集人員のうち24名の合否については、「英検準2級」以上相当の資格を持っている受験生に最大10点を加点し、調査書成績の満点が145点となって合否を判定します。

「調査書成績」は公立高校受験において大きな意味合いをもちます。そのため、日頃の学習をおろそかにせず、これからの学習に励んでほしいと願っています。